

札幌市の令和4年人口動態統計（確定数）の概況

1 合計特殊出生率は低下

合計特殊出生率は1.02で、前年の1.08より低下した。

札幌市の合計特殊出生率は、昭和35年以降、統計数値のある中では、昭和40年の1.93をピークに、昭和46年から49年の第2次ベビーブームの後から低下している。その後、一時的に上昇に転じた年もあったが、低下傾向が続き、平成17年には過去最低の0.98となった。以降、平成18年から若干ではあるが上昇傾向を示していたが、平成28年からは再び低下している。

※ 合計特殊出生率とは

$$\text{合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right\} \text{15歳から49歳までの合計}$$

ある年次について15歳から49歳までの女性の年齢別（年齢階級別）出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

2 出生数は減少

出生数は11,172人で、前年の11,988人より816人減少し、出生率（人口千対）は5.7で、前年の6.1より低下した。

3 死亡数は増加

死亡数は23,561人で、前年の21,931人より1,630人増加した。

死亡率（人口千対）は11.9で、前年の11.1より上昇した。

年齢調整死亡率（人口千対）は男性5.0、女性2.8で、男女ともに前年の男性4.9、女性2.6より上昇した。

※ 年齢調整死亡率とは

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢(年齢階級)の総和}}{\text{基準人口集団の総数}}$$

人口構成の異なる集団間での死亡率を比較するために、年齢階級別死亡率を一定の基準人口(昭和60年モデル人口)にあてはめて算出した指標である。

4 自然増加数は減少

自然増加数は△12,389人で、前年の△9,943人より2,446人減少した。
自然増加率(人口千対)は△6.3で、前年の△5.0より低下した。

5 死産数は増加

死産数は275胎で、前年の269胎より6胎増加した。
死産率(出産(出生+死産)千対)は24.0で、前年の21.9より増加した。
自然死産率(出産千対)は9.3であり、人工死産率(出産千対)は14.7である。

6 婚姻件数は減少

婚姻件数は8,292組で、前年の8,496組より204組減少した。
婚姻率(人口千対)は4.2で、前年の4.3より低下した。

7 離婚件数は減少

離婚件数は3,455組で、前年の3,540組より85組減少した。
離婚率(人口千対)は1.75で、前年の1.79より低下した。

※出生率、死亡率、自然増加率、婚姻率、離婚率は令和4年10月1日現在の推計人口をもとに算出し、合計特殊出生率及び年齢調整死亡率は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口(日本人)をもとに算出した。

○備考：21 大都市(東京都の区部と政令指定都市)別の合計特殊出生率については、国勢調査の結果解析年(調査実施の翌年)のみ国より発表を行っています。